

「ある家族の新年会での年金談義」(2)

団塊の世代に属する年金コンサルタントが、家族を連れて、妻の実家に新年の挨拶に行ったところ、年金改革を酒の肴に、元大学教授の義父(お爺さん)と議論がはじまってしまった。それでは、彼らの会話に耳を傾けてみよう。(連載第2回)

年金審議会の先送り案件——民営化・積立金取崩し

(大学生の孫) そういえば、大学の先生が言っていたけど、なんでもかんでも国にやってもらおうっていう考え方が、まずいんじゃないの。いっそのこと全て民間の金融機関にやらせたら、いろんな問題は一気に解決されちゃうんじゃないのかなあ。

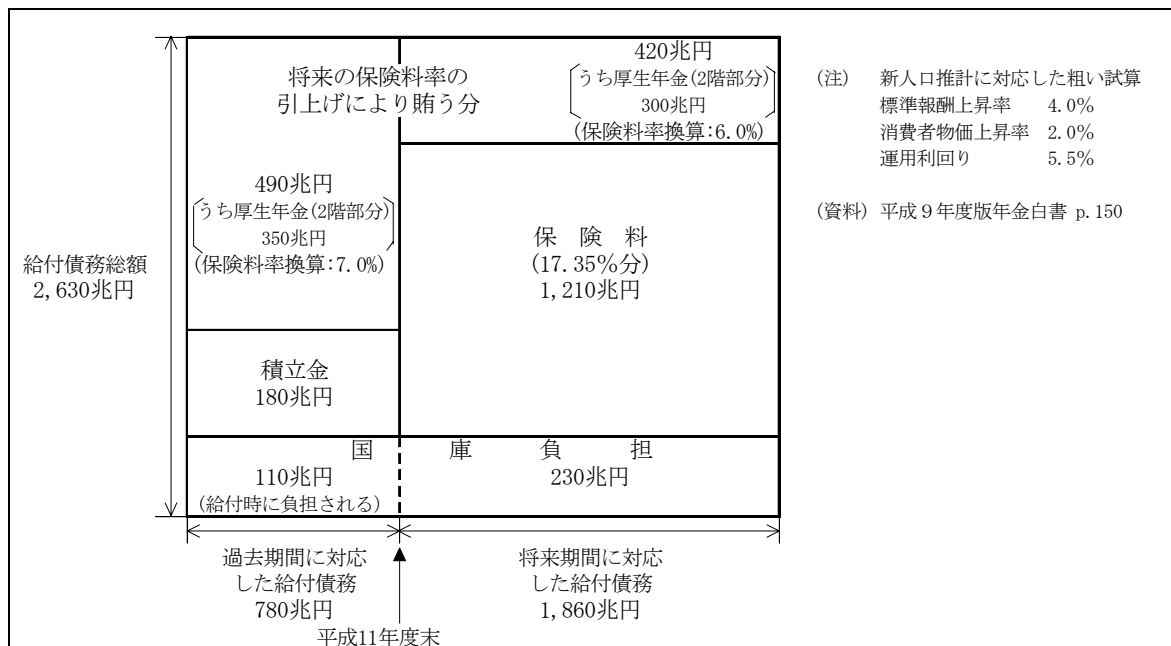
(コンサルタント) 経済学者や財界を中心に、そういう提言も多いのだが、今のところ、当局の方では、現役世代が、自らの将来分に加えて、受給世代の年金の積立も負担しなければならない、いわゆる「二重の負担」論で片づけている感じだ。ただ、政府の経済戦略会議が、厚生年金について、将来的な民営化を打ち出したけどね。

(大学生の孫) だって、今の制度を放っておくと、ますます「二重の負担」が、僕らの世代に先送りされるだけなんだから、何とかしてほしいなあ。

(コンサルタント) これは、世界的な問題なんだ。米国の社会保障年金も、いずれ破綻しそうなので、いくつか改革案がでているが、その中に、401(k)プランのような確定拠出型の一部導入案もある。英国では、すでに、個人年金の加入を条件に、国の所得比例年金からの脱退を認めているが、さらに、一階部分の民営化案(政府の最低保証付き)まででてきている。チリの成功例から、中南米では民営化ブームだし、オーストラリアも確定拠出型公的年金を導入した。

(お爺さん) しかし、民間の金融機関は、巨額の不良債権を抱え、信用できん。やはり、最後まで信じられるのは、お国だけじゃ。郵便貯金は利回りが良く、しかも安心だから、皆が貯金しているんじゃない。公的年金の民営化なんか、とんでもないんじゃないのかなあ。

図1 厚生年金の給付債務と財源構成



(大学生の孫) そう思う人は、タンス預金すればいいんだよ。とりあえず、厚生年金だけで、約 120 兆円(97 年 3 月末)もある積立金を、みんなに返すことにすればいいのに。

(コンサルタント) そんなことしたら、明日から、誰がどうやって年金を払うんだよ。

(大学生の孫) だからさ、自己責任で個人年金に入ったりすればいいんだよ。

(お爺さん) もう年金をもらい始めているわしらには、自助努力のしようがないじゃないか。今でも厚生年金だけで約 1400 万人に約 17 兆円払っていて(96 年度)、それがこれからどんどん増えていくんだから、それだけで、もう皆に返す分なんてないんだよ。ちょっと自転車操業みたいだが、走り続けるしかないんじゃないか。それとも、将来の償還資金を負担するのは、結局お前達、若い連中だけど、国債でも大量に出すか。

年金審議会の先送り案件——積立方式化

(大学生の孫) うーん・・・何か変だなあ・・・。だったらせめて、公的年金も、民間の個人年金と同じように、きちんと自分の分を積み立てるようにしたら。そうすれば、若者が減って困るという問題はなくなるよ。

(コンサルタント) それも主張する論者がいるが、当局は、やはり「二重の負担」ということで、否定している。しかし、注意したいのは、積立方式と民営化はイコールではないことだ。チリのように、貯蓄は国が強制して、運用は民間でということもある。積立方式だって、今の財投や、今後予定されている自主運用でも同じだけど、国が運用に失敗したら、誰が責任をとるのか問題だ。「財投も不良債権を多く抱えている」という批判があるくらいだ。

(お爺さん) しかしまあ、民間の金融機関よりましじゃろう。お国は倒産しないし。

(大学生の孫) だからそこはさ、一人一人が選べるようにすればいいんだよ。ぼくは個人年金だとか、お父さんは企業年金がいいとか、国の年金のままでいいとかさ。

(コンサルタント) ただ、積立方式による「二重の負担」も、現行の賦課方式での保険料引き上げも、世代間の不公平という同じ種類の問題とみた方がよい。学者は、積立方式に移行すると世代間不公平がなくなるというが、それは移行後の話で、移行期には不公平が生じるんだ。結局、賦課方式や、積立方式といった、机上論ではなく、過去勤務債務を何年で償却するか、その償却財源をどの世代に求めるか、という議論に集約できると思うよ。

(お爺さん) わしも最近、いろいろ勉強して知ったのじゃが、欧州では、賦課方式の方が良いという意見も根強い。特に戦後のハイパー・インフレで年金の実質価値が暴落した歴史をもつフランスなどでは、積立金に対する信頼がハナからないようなんじゃないか。それから、国が資金を管理することによって、財政が放漫化したり、利権の温床になる懸念も指摘されている。要は、政府でも民間でもいいけど、運営組織が本当に信頼でき、良い成果をあげることができるかどうかには尽きるじゃろう。

(大学生の孫) 何だか話が難しくなってきたなあ。でも「本当に信頼できる」運営組織なんていうのがあれば、そもそも、こんな問題はおきないんじゃないの。

(お爺さん・コンサルタント) ……

※ 思わずコトバを失う大人たちであったが、新年会はもう少し続くようだ。